

授業科目名	精神医学	授業形態	講義	配当学期	2年（前期）
担当教員名	島本 裕士	単位数	1単位	時間数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>精神疾患というと特別なものととらえがちだが、状況により誰でも生じる疾患であるので全体的に網羅しておく必要がある。また、治療に時間がかかるため、症状だけでなく、それを取り巻く周囲の人々（家族など）についての苦悩についても学習しておく必要がある。また、社会面での援助のありかたについても学ぶ必要がある。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>診断基準と分類ができるようになる。 それぞれの特徴について説明できるようになる。</p>				
授業回数	授業内容				
第 1 回	p2 オリエンテーション ※精神医学とは何か、本授業の評価の方法の理由など				
第 2 回	p4 精神機能① 意識・知覚 ※意識障害の種類とその状態、クイズ形式で考える				
第 3 回	p7 精神機能② 記憶・知能・思考 ※高次脳機能障害の授業範囲と重複するが記憶や知能について概説する				
第 4 回	p13 精神機能③ 感情・意欲 ※感情や意欲の障害について講義する				
第 5 回	p16 診察と診断、検査法、治療法 ※実際にSTが診察や診断・治療をすることはないが、知識としては必要				
第 6 回	p23 グループワーク—考え方を考えてみる・共感してみる— ※治療についてグループワークを通して体感する				
第 7 回	p25 認知症・てんかん ※臨床に出て最も接する精神障害は認知症である。深く理解してほしい				
第 8 回	p30 症候性精神障害総論 精神作用物質の行動障害 気分障害 ※アルコール依存症やうつ病など、聞きなじみの深い疾患を取り上げる				
第 9 回	p34 統合失調症 神経症性障害 ※統合失調症は思春期発症の疾患で国家試験にも頻出の疾患です				
第 10 回	p38 ストレス反応および適応障害 摂食障害 睡眠障害 心身症 ※PTSDや摂食障害など知っているが、イマイチ理解してないような疾患				
第 11 回	p42 成人の行動・人格障害 その他補足 ※人格障害とは、性格が診断名がつくほど違うような方をさします。				
第 12 回	p49 グループワーク—問題を解く—① ※1-11コマで得た知識を使用し問題をグループで解いてみる				
第 13 回	グループワーク—問題を解く—② ※1-11コマで得た知識を使用し問題をグループで解いてみる				
第 14 回	p70 学びの総まとめ① ※問題を解いたら重要なところが見えてくる、それをオリジナル編集する				
第 15 回	学びの総まとめ② ※問題を解いたら重要なところが見えてくる、それをオリジナル編集する				
評価方法	定期試験で評価します（100%）				
教科書 参考図書	〔教科書〕 精神神経疾患ビジュアルブック				
	〔参考図書〕 なし				
履修上の 留意点	配布物で予習復習をしてから望んでください。 配布資料は1冊にまとめ、シラバスにページ番号を記載した				
メッセージ	予習・復習できるように配布プリントを一冊にまとめてみました。 患者様だけでなく、自分やクラスメイトにも関係するようなものです。暗記ではなく理解しましょう。				